

みんなだれかの大切な家族

小四

ぼくは、お母さんにほめられるとうれしくなります。お母さんやお父さん、それにお姉ちゃんが、ぼくのことを見守つていってくれると思うと、いつもほつとした気持ちでいられます。ぼくの大切な家族です。家族がなんでもしてくれるわけではないし、今みんなでいっしょにいられるのもきせきです。毎日楽しい日々が送っているのも家族がいるからです。

ぼくが学校で友達とけんかをしてしまったとき、言い合いになつてきずつくなことを言われ、トイレで一人

でくやしくて泣いてしまつたことがあります。もやもやした気持ちで帰ると、その話を聞いたお姉ちゃんがいつしょにはらを立ててくれました。お父さんやお母さんは心配をしてくれて、

「こうやつたら仲直りできるんじやない？」

とか、

「こういう気持ちのときはこうするといいよ。」

といろいろ教えてくれたり話を聞いてくれたりしました。おかげでぼくは落ち着いて考えることができました。落ち着いて考えたら、ぼくも友達にひどいことを言つてしまつたことを思い出しました。おこつている

ときは気付かなかつたけど、友達もきずつけてしまつたかもしれないと思いました。

「あなたがきずついたり悲しかつたりすると、お母さんも悲しいな。」

とぼくのお母さんはよく言つています。「もし、友達のお母さんも同じ気持ちだつたら、友達も、友達のお母さんも、友達の家族も悲しい気持ちにさせてしまつたかもしれない。ぼくは悪いことをしてしまつた。」

と思いドキドキしてきました。次の日、ぼくはすぐにあやまりました。友達もあやまつてくれて、休み時間にはいつも通りドッジボールで仲よく遊びました。

この時のけんかで、ぼくは大事なことに気付けました。ぼくに大切な家族がいるように友達にも大切な家族がいるということです。ぼくがうれしかつたり悲しかつたりしたら、ぼくの家族もうれしかつたり悲しかつたりするように、友達や、友達の家族も同じなんだということです。友達だけじやありません。先生や大人の人、外国の人もみんなだれかの大切な人なんだということです。みんなが、だれかの大切な人というのはすばらしいことだと思います。だからこそ、その人をきずつけたり、悲しませれば、その人の家族や大切な人を悲しませることになります。ぼくはそれはやつてはいけないこと

だと思います。だから、ひどいこと
やいじわるを言いそうになつたとき、
ぼくはそのことを思い出そうと思いま
す。
ぼくは、あのけんかした日のドキ
ドキした気持ちをわすれずに、友達
や周りの人を大切にしたいで